

## 2022年6月1日～2024年5月31日の間に 当科において抗がん薬による治療を受けられた方及びご家族の方へ

### 「がん薬物療法における制吐薬の適正使用に関する状況調査」へのご協力をお願い

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者	川崎医科大学附属病院	薬剤部	薬剤師	木村 智
研究分担者	川崎医科大学附属病院	薬剤部	薬剤師	南 裕貴
	川崎医科大学附属病院	薬剤部	薬剤師	神出 実湖
	川崎医科大学附属病院	薬剤部	薬剤師	中桐 万智
	川崎医科大学附属病院	薬剤部	副主任	山下 真史
	川崎医科大学附属病院	薬剤部	主任	藤井 哲英
	川崎医科大学附属病院	薬剤部	薬剤師	森田 早貴
	川崎医科大学附属病院	薬剤部	薬剤師	亀尾 剛士
	川崎医科大学附属病院	薬剤部	薬剤師	松島 彩音
	川崎医科大学附属病院	薬剤部	薬剤師	佐々木 健介
	川崎医科大学附属病院	薬剤部	薬剤師	小林 美代子
	川崎医科大学附属病院	医療安全管理部	薬剤師	二宮 洋子

### 1. 研究の概要

抗がん薬を用いてがんの治療を行うことを「がん薬物療法」といいます。抗がん薬は薬によって吐き気を起こす危険度がそれぞれ違うため、その危険度に見合った、適切な吐き気止めをあらかじめ使用することがガイドラインで推奨されています。当院でもなるべくガイドラインに沿った吐き気止めを使用するよう努めてきましたが、昨年(2023年)10月にガイドラインが改訂され、新たな薬剤の選択肢が増えました。また当院では昨年5月に、最も強力な吐き気止めであるNK<sub>1</sub>受容体拮抗薬を、より投与時間が短くて済むホスネツピタント(商品名：アロカリス)に変更しました。この研究は、当院でのがん薬物療法における吐き気止めの使用状況を調査し、適切な吐き気止めが投与されているか評価するとともに、より安全で適切な吐き気止めの投与を行うための、今後の課題を明らかにすることを目的としています。

### 2. 研究の方法

#### 1) 研究対象者

2022年6月1日～2024年5月31日の間に川崎医科大学附属病院において、抗がん薬を用いたがんの治療を受けられた方を研究対象とします。

#### 2) 研究期間

倫理委員会承認日～2024年11月17日

### 3) 研究方法

使用される抗がん薬に見合った、ガイドラインで推奨されている吐き気止めが投与されているかを調べ、適切な吐き気止めが投与されている割合を調べます。またガイドライン改訂に伴い新たに加わった治療薬の使用状況や、薬剤変更に伴う副作用など、新たな問題点がないか調べます。

### 4) 使用する情報の種類

カルテから下記の情報を調べます。

性別、年齢、科名、入院/外来、がん種、がん以外の病気の有無と治療内容、実施された治療の名称、投与された抗がん薬の種類、投与された吐き気止めの種類・用量・用法・投与日数、睡眠剤・安定剤などの処方状況 等

### 5) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、川崎医科大学附属病院 薬剤部内で保存します。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の試料・情報は施錠可能な保管庫に保存します。

### 6) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2024年9月30日までの間に、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

#### <お問い合わせ・連絡先>

川崎医科大学附属病院 薬剤部

氏名：木村 智

電話：086-462-1111 内線 22554（平日：8時30分～17時00分）

E-mail：skmakatasa39@hp.kawasaki-m.ac.jp

### 3. 資金と利益相反

この研究において、資金の受入及び使用はありません。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが生じかねない状態を利益相反状態といいます。

本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。